

912.3
力

困 栖
檀 府
谷 切
十九

春日龍神

糸竹

月未は越くともそはれと月の心後も

あふれと月に入雲波あふれ 句 乞小梅尾

若の由法師あふれ我入唐後夫れ心あ

はよるまき日此の糸竹あはれを呉る素流は

い上やヤ花若山梅りる糸竹あふれみえかく

あふれあふれ糸竹松緑のあふれ糸竹あ



七律あるものからかと思はれども、
とてあはれいよあはれいよ
唯今未だ中事

の儀ありし。我入唐後天の志ありし。海
無んはるは。新羅の山。是ハ此羽た元と
ぬわうか。以て世の耐ありし。元が心は
あつた。今つらき。日此を守ありし。列雲
あつた。今つらき。日此を守ありし。列雲

乃解脫上人と。法良と。我乃眼を
子。思ひ。直夜。各。入の。あつた。は
悲し。い。あつた。あつた。あつた。あつた。
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

とあるゆゑにあらまほしうして神多に尊しと云
又言ふよりぬゆゑに聖人尚社神系の爵
宗良坂のびとと合せし礼殊と云ふる
を中に及す心上なるを其の
く風もぬぬと枝とされ春日山神を元
物新麻まゝも落おとしくおひ入勝と
折角と云ふひ上を礼殊と云ふは程の事持

を冠するも海との傳ちたることナリふ
ハ武彦彦のまゝを礼を臣唯恐くわづれ
む神乃ゆゑと云ふゆゑに神意とあるゆゑ
しませ神意を何れありませ上りまは伝法東
漸と云ふその時代よなること云ふ流布
乃妙道今我物乃何なるや流傳入
唐後天のいひに佛法流布の名と云ふ

新すすや春日とありに影さく接ひとは
方の春日山文津も未あつたるをさるたあ
乃ち寺月とみく光を海さる七たさ法
花も八も楊の影と春日野の春うえ
のむかりまれ 影にたさあは影入る後
天は葉さひらゆりひくさくは身
いれをえ 影もあ霜のかりめさる今

霞ひとねと接ひるささの山にめたさとう
法は藤那の誕生 伽那の成道 祇尊
の說法 雙林の入城 海とささくさる也
なまへく將家のゆきと本佛にゆき
花我の風秀行とささるを花さる也
にさるく 上 時よ花震動さるハハ花さ
ひ花れ出現とさる人氏因に雷動せり 時
春日

春日

大震動ダイシユウドウとて下界に於て是れをシテ八

大龍王ダイリウオウとて龍王リウオウとて跋難陀龍王ハツナンダリウオウ

毘伽羅龍王ヒカラリウオウとて和依龍王ワヨリリウオウとて德叉迦龍

王オウ阿那婆達多龍王アナハダタリウオウとて百子眷屬ヒャクシケンロクの王オウ

とて半城ハンシヨウの波調ハシヨウとて多タの佛ブツに舍シヤに於オケて

とてシテ龍王リウオウとて龍王リウオウとて其シテ外ソトに妙法ミョウホウ摩訶

羅王ラオウとて又持法マツホウ摩訶那羅王マカナラオウとて樂就ラクジウ團ダン樂

王オウ樂音ラクオン乾陀カンタ國クニ樂ラク王オウとて婆雅ハヤ阿修羅アシュラ王オウ

羅摩ラマ阿修羅アシュラ王オウ乃恒沙ノウコウシャに眷屬ケンロク引連ヒキツラヒく

是コトも亦モトモト於オケてくク所シヨ列レツとて龍リウ女ニョとてたら海ウミ波ハ

洞ツツミの神カミとて白シラカミあアかカわワやヤ和ワ田テンにニ來キの波ハ浪ナミと

白シラカミ玉タマとて川カハの深フカイのナミをシ又モトモトとてシテ海ウミ名ナ屋ヤ海ウミ

ゆユとてシテ大ダイ龍リウ王オウとて亦モトモト保ホ保ホにニ川カハのナミはハう

八ハチ龍リウ王オウとて八ハチ龍リウ王オウはハ八ハチの冠カ冠

春日

舞

巻九 越

個 柄

弓

おもむきとを雲井とては春北の月乃
都衣名残のか 道ららるるあふ

妻

の月らるるあやみ頼女ちせ神風や糸の

ふらたあともたは雲滑川の山流き清

妻

月原の天をひて掛りまは けき申れ

ゆかたのりらるるあやみ頼女ちせ神風や糸の

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

よはゆ又ち解のまひにこそやまじき人
らうらひも遠回念のぢまはぬと我の若菜
の家おちらひ道の果はともは兼こふ
ありや^ト身と梅山屋世中^トのうぢの
お指^ト海よりたんと^ト上少麻ぬらむ春日山
おく^トまをたぬる春雨の音はつらそ
飛^ト河よりやちり^トとそ花曇りのあはれ

秋の原を雲おにゆへこのまをさ
おれら^ト秋と^トひま^ト海ら^トい^トえ
あり^ト海^ト事^ト少^トゆ^トと^トあ^トら^トあ^トせ^トら
とたあ^トら^トく^ト客^ト見^トの^トは^トさ^トい^トあ^トと^トあ
海^トの^トあ^トら^トく^トの^トあ^トら^トく^トあ^トれ
春^トの^トあ^トら^トく^トの^トあ^トら^トく^トあ^トれ
あ^トら^トく^トの^トあ^トら^トく^トの^トあ^トら^トく^トあ^トれ

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document, written on aged paper. The text is arranged in approximately seven horizontal lines, flowing from right to left. The characters are dark and somewhat faded, with some ink bleed-through visible from the reverse side of the page.

Handwritten text in cursive script, continuing the text from the previous page. It is arranged in approximately seven horizontal lines, also flowing from right to left. The paper shows signs of age and wear, with some staining and discoloration.

と見渡すにいかにあはれなるかと思ふに
と持ての程に思ふにたゞかよふと心
くる 悦ぶ程にたゞのびかた胸うら
さうに海よあはれなればと心はさう
公を蒙るとさう入つて思ふにたまは
せしめられたるをえとて名をたぬるの所
うの事ありとあつちの今日物に思ふ

久らに別業の林間をたがはれぬたあ
ゆとたに 何とてたがはれぬとあり
時乃らとての事おはした代りの事や
あゆみのおはれぬとて成とてあ
いふと海なるに海らあまの事あひ人よ
海らあ海なるを人よとて射ばあ
の海と射たるに海なる事あては

けずりたるはらふとて一りはたかたか
らむけりて擁さく世はわらう者
し擁神乃身めてと船なるはま
あやうらほし家々同し事身と
しあふはむけりてとて者
らあやうらほしと孫もあま
若くはあやうらほしと

うらあはくしあふはたせ
ハゆりたるはまらあふ
と婿やかと名りや 元 天 日 上 日 上
あふは神の打志厚もた川船の
あふは余あまの婿もあふは
と船はあふ水くあふは
よふはあふはあふはあふは

くくくく和光の社がよき是れしむ
ははの文守をな ああわれ出光
あはしんやん事のみ けあらあ
宿まあ今やんはあさ
これ勝らんはあはあはあ
うはあうあてあはあはあ
叔下馬あはあはあはあ

下るうなあはあはあはあ
あはあ神の山事や蟻通の山社
てあはあ志はあはあはあはあ
る上あはあはあはあはあはあ
の山事うれはあはあはあはあ
あはあはあはあはあはあはあ
あはあはあはあはあはあはあ
あはあはあはあはあはあはあ

あはれしづき... 西白

しく物来か... 西白

あまひ... 西白

ふま... 西白

と... 西白

修... 西白

と... 西白

六義わりの... 西白

ひ... 西白

乃... 西白

備... 西白

も... 西白

て... 西白

表... 西白

作るに ^女 御親のまゝの御人をしていゝるまゝと云

侍の御人の御りたるまゝと云ふまゝの御りたるまゝと云

まゝの御りたる ^親 親の御りたるまゝと云

の御りたるまゝの御りたるまゝと云

御りたるまゝの御りたるまゝと云

くろく 善く行はば徳は老のよきとく

は善くを固くつとせむとて善くとも徳なりと云

善くとも善くするよとて善くとも徳なりと云 徳

の徳ならんはうらやまといふ 是は徳業と云徳

なりとも徳の徳は徳の徳業と云徳業といふ

是は徳なりと徳徳の徳なりと云徳徳

を徳徳の徳なりと徳なりと云徳徳

徳なりと徳なりと徳なりと云徳なりと

徳なりと徳なりと徳なりと云徳なりと 徳

徳なりと徳なりと徳なりと云徳なりと 徳

徳なりと徳なりと徳なりと云徳なりと 徳

徳なりと徳なりと徳なりと云徳なりと 徳

徳なりと徳なりと徳なりと云徳なりと 徳

徳なりと徳なりと徳なりと云徳なりと 徳

中平者もては又是より後つよに物釣りのはさ
はるゆゑに名をすしにぬく物釣りをしはれ
とて此より申すは是れ今一層は動ぬるやう
ゆるゆるにゆるよきとてはゆるゆるにゆるゆる
とて物釣りのはさるるにゆるゆる

吉野

作想して因のゆるゆるに對面するは世に
よそよそにゆるゆるにゆるゆるにゆるゆる

物釣りのはさるるにゆるゆるにゆるゆる

ゆるゆるにゆるゆるにゆるゆる

ゆるゆるにゆるゆるにゆるゆる

ゆるゆるにゆるゆるにゆるゆる

ゆるゆるにゆるゆるにゆるゆる

ゆるゆるにゆるゆるにゆるゆる

ゆるゆるにゆるゆるにゆるゆる

Handwritten text in a cursive script, likely a list or account. The text is written on aged, yellowed paper. The entries are arranged vertically and include various words and numbers, possibly representing a ledger or a list of items. Some entries are written in a larger, more prominent hand, while others are smaller and appear to be corrections or additional notes. The script is dense and difficult to decipher without knowledge of the specific language or dialect used.

Handwritten text in a cursive script, continuing the list or account from the previous page. The text is written on aged, yellowed paper. The entries are arranged vertically and include various words and numbers, possibly representing a ledger or a list of items. Some entries are written in a larger, more prominent hand, while others are smaller and appear to be corrections or additional notes. The script is dense and difficult to decipher without knowledge of the specific language or dialect used.

うね葉い子いもあ考うそい
梅⁴

若殿いもやいもねい
何あうそい⁴

て葉い子いねあもあうそい⁴

い終乃乃のあもあうそい⁴

かあうそい⁴

そい⁴

い⁴

い⁴

い⁴

い⁴

い⁴

い⁴

い⁴

左様よりうをゆらさしむり

ナカノ浦の海

つゝ成業のやうなわとぬらひの行のまの二層のうた
ととれを愛するまやとくが田のわの海より
此物にたがひのうたの山をたれ中をよれ人の上
物類のよはひのうたをたれとくが田のわの海より
ふたりのうたをたれとくが田のわの海より
ふたりのうたをたれとくが田のわの海より

ふたりのうた

ナカノ浦の海

なつかしいよ梅若者なむとぬらひの行のまの二層のうた

ふたりのうたをたれとくが田のわの海より
ふたりのうたをたれとくが田のわの海より
ふたりのうたをたれとくが田のわの海より
ふたりのうたをたれとくが田のわの海より
ふたりのうたをたれとくが田のわの海より
ふたりのうたをたれとくが田のわの海より
ふたりのうたをたれとくが田のわの海より
ふたりのうたをたれとくが田のわの海より
ふたりのうたをたれとくが田のわの海より
ふたりのうたをたれとくが田のわの海より

ナカノ浦

.....
.....
.....
.....

.....
.....
.....
.....

.....
.....
.....
.....

.....
.....
.....
.....

.....
.....
.....
.....

.....
.....
.....
.....

.....
.....
.....
.....

.....
.....
.....
.....

.....
.....
.....
.....

.....
.....
.....
.....

.....
.....
.....
.....

.....
.....
.....
.....

.....
.....
.....
.....

.....
.....
.....
.....

.....
.....
.....
.....

あつちをいふ
物初めは乃
よよよとて

あつちをいふ
物初めは乃
よよよとて
あつちをいふ
物初めは乃
よよよとて

あつちをいふ
物初めは乃
よよよとて

あつちをいふ
物初めは乃
よよよとて

あつちをいふ
物初めは乃
よよよとて

あつちをいふ
物初めは乃
よよよとて

あつちをいふ
物初めは乃
よよよとて

あつちをいふ
物初めは乃
よよよとて

あつちをいふ
物初めは乃
よよよとて

あつちをいふ
物初めは乃
よよよとて

あつちをいふ
物初めは乃
よよよとて

あつちをいふ
物初めは乃
よよよとて

あつちをいふ
物初めは乃
よよよとて

中事のあらはれ事だに心と教を返りし書に个一は

あはれなる色と 無常のまじりては

引矢の捕と無常のまじりては返りし書に个一

世に代はまじりては返りし書に个一

世に代はまじりては返りし書に个一

あはれなる色と 無常のまじりては

Handwritten text in cursive script, top line of the first page.

Handwritten text in cursive script, second line of the first page.

Handwritten text in cursive script, third line of the first page.

Handwritten text in cursive script, fourth line of the first page.

Handwritten text in cursive script, fifth line of the first page.

Handwritten text in cursive script, sixth line of the first page.

Handwritten text in cursive script, seventh line of the first page.

Handwritten text in cursive script, top line of the second page.

Handwritten text in cursive script, second line of the second page.

Handwritten text in cursive script, third line of the second page.

Handwritten text in cursive script, fourth line of the second page.

Handwritten text in cursive script, fifth line of the second page.

Handwritten text in cursive script, sixth line of the second page.

Handwritten text in cursive script, seventh line of the second page.

いふはあはれとて保原のやうなるものなりとていふは

討つてはるるの自守の事なりとていふはあはれとてい

座はあはれとていふはあはれとていふはあはれとてい

うふ意舟とあはするよ 舟 ぬくわ

舟は後船 舟 ぬくまふく

中流に柱とそれ 舟 行ふ或る船は

て強ひ着く 舟 舟の舟は舟は

舟は舟とあはする 舟 舟の舟は

舟は舟の舟 舟 舟と舟は

舟は 舟 舟の舟 舟 舟は舟

舟は舟とあはする 舟

舟は舟とあはする 舟 舟の舟は

Handwritten text in Arabic script, likely a list or index. The text is written in a cursive style and includes several lines of entries, some with small annotations or numbers. The entries appear to be names or titles, possibly related to a collection or a specific subject.

Handwritten text in Arabic script, continuing the list or index from the previous page. The text is written in a cursive style and includes several lines of entries, some with small annotations or numbers. The entries appear to be names or titles, possibly related to a collection or a specific subject.

舟のこゝろに舟のこゝろに
何とて

くやまをくやまの男
日 大衆のこゝろに

くまのこゝろに
一子余を白志ん

志のこゝろに
志野のこゝろに

志のこゝろに
志のこゝろに

七十八全則 志のこゝろに
志のこゝろに

志のこゝろに
志のこゝろに

と中世の志のこゝろに
志のこゝろに

上 志のこゝろに
志のこゝろに

志のこゝろに
志のこゝろに

志のこゝろに
志のこゝろに

日 志のこゝろに
志のこゝろに

志のこゝろに
志のこゝろに

日 志のこゝろに
志のこゝろに

日
渡中乃中子親者、
二十八日、

ひまじきもあきら

日
扱形ひまじき

主乃るくわさふ成船付く英里の

と海へ一う行よる程の浦は

初ゆめあ実るうて愛之徳野の

来よりめくたる色

谷行

星、東山今徳野は住居とる

と二人おきふまねとる

とひは母はよとてね

を八里おきあめり

と信るもあともる

子
難とて海はそ

谷行

長
意持よきりつ高城のじろよき

いかにしんかかかかかかかかかか

かかかかかかかかかかかかかかか

の...
 大...
 中...
 目...
 せ...
 ら...

の...
 花...
 志...
 其...
 力...
 う...
 南...

Handwritten text in a cursive script, likely a list or account. The text is written on aged, yellowed paper and is oriented vertically. It consists of approximately seven lines of dense, flowing handwriting. Some lines begin with small, distinct characters that may serve as section markers or initials.

Handwritten text in a cursive script, continuing the list or account from the previous page. The text is written on aged, yellowed paper and is oriented vertically. It consists of approximately seven lines of dense, flowing handwriting, similar in style to the text on the top page.

かきつとて... 扱何し仕人...

此の御歌... 作家... 年月の...

極その極の... 年月の...

とて... 扱...

是れ... 扱...

く... 扱...

若し極... 扱...

扱... 扱...

と... 扱...

扱... 扱...

扱... 扱...

扱... 扱...

扱... 扱...

扱... 扱...

大正不勤の感 又此神の念

せん 神は再おんのうんそく

おんそくをうんそく 徳志の神の

んそくをうんそく 徳志の神の

行 くのそくをうんそく 徳志の神の

生之くのそくをうんそく 徳志の神の

産之くのそくをうんそく 徳志の神の

んそくをうんそく 徳志の神の

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is arranged in several lines, with some words appearing to be in a different script or dialect. The paper shows signs of age and wear.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is arranged in several lines, with some words appearing to be in a different script or dialect. The paper shows signs of age and wear.

